

令和7年度 自己評価計画書(最終報告)

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析及び今後の課題
1教科指導の充実と専門性の継承	①主体的に教科指導の研修及び研究授業指導案検討等に参加することで、聴覚障害教育の専門性の向上を目指すと共に、現行学習指導要領に基づく教科や言語活動の指導力向上を図る。	○研究研修課	【成果指標】 主体的に教科指導の研修及び研究授業指導案検討等に参加することで、聴覚障害教育の専門性の向上を目指すと共に、現行学習指導要領に基づく教科の授業等で個々の実態に応じた幼児児童生徒にとってわかりやすい指導を考え、実践し、幼児児童生徒の言語力や思考力を向上させることができた。	個々の幼児児童生徒の実態に応じた教科指導力及び聴覚障害教育の専門性を高めるために研修等に参加し、言語活動を意識した授業や関わりを行った教職員が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価 96% A 最終評価100% A	【成果】 ・言語聴覚士を招いて発音指導に関する研修や、自立活動委員会と連携して各部の言語指導の取組を全校研修として見合うことで、各部の現状把握や指導の実際について共有でき、教職員において専門性に関する意識が向上した。 ・教科指導では、各部で授業実践を行い指導主事や金沢大学アドバイザー事業を活用した研修会を行うことで、教職員一人一人において言語活動を意識した授業づくりに関する指導力の向上につながった。 【課題】 ・教職員の異動等があるので、聴覚障害教育に必要な専門性を学ぶ機会を設けたり、授業実践に取り組んだりすることで、継続的に教職員の指導力向上に努めていく必要がある。
	②デジタル教科書の活用及びICT機器を活用した文字情報提示による情報保障(UDトーク等)を授業に生かす。	○総務課、GIGAスクール構想推進委員	【成果指標】 幼児児童生徒の言語力の向上を意図し、ICT機器によるデジタル教科書や文字情報提示による情報保障などについて、授業や行事等で活用することができた。	言語力の向上を意図し、ICT機器を授業や行事等で活用することができたと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者、教職員 中間評価 89% A 最終評価 96% A	【成果】 ・ほとんどの職員が言語力の向上を意図して、ICT機器による情報保障を活用することができた。 ・ICT機器活用だけではなく、実体験や実物の使用を重視した指導も見られる等、ICT機器使用の使用場面や使用効果を適切に判断して指導ができるようになってきている。 【課題】 ・保護者に、子どもの実態や発達段階に応じたICT機器の使用状況や効果をわかりやすく伝えたり、言語能力の向上が実感できるように具体的に説明したりする必要がある。
			【成果指標】 授業のときに、自分のICT端末を使って、わからないことを調べたり、考えをまとめたり、友達と意見交換したりして、課題を解決することに粘り強く取り組むことができた。	学習場面でICT端末を使って課題解決に向けて取り組めた児童生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童・生徒 中間評価 96% A 最終評価100% A	【成果】 ・ほとんどの児童・生徒が学習にICT機器を活用し、意見交換や課題解決に取り組むことができた。 ・継続して使用することで、操作や使用場面に慣れてきた様子が伺える。 【課題】 ・一人一人に応じて、自分の学びに適した活用ができるように指導していく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・ICTの活用について、前回はモニターによる文字提示が一部の教室のみだったが、今回は全教室で使われていた。 ・評価が低い方がいるのは、学校の取組が保護者に伝わっていない面があると思われる。 ・言語力の向上を評価することは難しいと思うが、現在では、テレビに字幕表示できるので、家庭で常に字幕をつけておくなど、家庭でできることを発信し、言語力の向上につなげるとよいのではないか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・言語力の向上を評価することは難しい面があるので、学校での指導の様子や成果を具体的に説明していく。 ・家庭とも連携しながら、言語力の向上につながる日常生活で取り組めることやICTを活用した学習方法等について発信していく。				
2共生社会の実現に向けたキャリア教育の推進	③幼児児童生徒が将来の夢を描けるようなキャリア教育を推進すると共に、聴覚障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習の中でキャリア発達を促す。	○進路課	【成果指標】 キャリア発達の視点で情報提供や指導を行うことで、幼児児童生徒がねらいを達成し自分の将来像を描けるようになった。	キャリア発達の視点で情報提供や活動を行った結果、ねらいを達成したり自分の将来像を描けるようになったりした幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者、教職員 中間評価 92% A 最終評価 96% A	【成果】 ・保護者から高い評価を得られたことは、主体的に進路について考えられるように教職員が情報提供したり、指導を工夫したりした成果であると考ええる。 【課題】 ・教職員一人一人の意識をより高めるために、各学部で行事等として取り組んでいるキャリア教育実践例を学部の教職員間で振り返り、他学部の教職員とも共有する必要がある。 ・改めて学校全体や教職員において、キャリア発達を意識した指導に関する捉え方を共有する必要がある。
	④主に聴覚障害のある乳幼児や一般の小中学校や高等学校に在籍する聴覚障害のある児童生徒に就園・就学・進学・就職等に関する情報を適切に提供するためのセンター的機能の充実を図る。	○きこえの相談支援センター	【満足度指標】 主に聴覚障害のある乳幼児や一般の小中学校や高等学校に在籍する聴覚障害のある児童生徒に対してセンター的機能を充実させるために、各学部やきこえの相談センターなどの校内資源を最大限に生かし、就園・就学・進学・就職等に関する情報を適切に提供することができた。	一般校に在籍する幼児児童生徒や保護者、教員等に対して、必要に応じて就園・就学・進学・就職等に関する情報提供を行った担当教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	専門相談担当 中間評価 88% A 最終評価100% A	【成果】 ・進路課員と共に専門相談を担当したことで、これまでよりも一人一人に応じた進路に関する情報提供を充実させることができた。 【課題】 ・就園、就学児など年齢の低い子どもにおいても、必要な情報提供を行うことができるよう、ケース会を通して相談員内で情報共有しながら専門性を高めていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・最近では、訪問した高校にもろう学校の相談支援が入っていると聞くことがある。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・就園、就学児など年齢の低い子どもにおいても、必要な情報提供を行うことができるよう、ケース会を通して相談員内で情報共有しながら専門性を高めていく必要がある。				
3健康で豊かな心が育つ安心・安全な学校づくり	⑤震災での教訓を生かした保護者、地域と連携した防災訓練を実施し、防災への備えを高める。	○保健体育防災課	【満足度指標】 ＜全教職員＞個々の子どもの実態に合わせて、防災教育にかかる指導を行い、保護者と災害時の対応について情報共有することができた。 ＜児童生徒＞災害が発生したとき、命を守る安全な行動の仕方がわかった。 ＜全保護者＞災害発生時の具体的な対応の仕方について理解できた。	災害時の対応について指導し、保護者と情報共有できた教職員、ならびに、災害時の対応について理解できた児童生徒、保護者の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒、保護者、教職員 中間評価 97% A 最終評価 98% A	【成果】 ・各部において、避難訓練の際の事前・事後指導、各教科等で扱う防災の内容について丁寧に指導することができた。 ・避難訓練ごとに活動の様子や取り組みについて、通信を作成・発行したことで、本校の防災教育の実践を保護者に周知することができた。 【課題】 ・災害時の連絡手段や引き渡し方法等、保護者と共有すべき内容について整理し、全教職員に周知する必要がある。
	⑥心を育む学校環境や掲示物の整備充実を図るとともに、聴覚障害を踏まえた情報リテラシー等の指導などを通して情報活用能力を高める。	○指導課	【成果指標】 幼児児童生徒の心を育むために、学校の環境整備を行うことや、情報リテラシーを高める指導ができた。	幼児児童生徒の心を育むための、学校の環境整備や情報リテラシー教育を行った教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒、教職員 中間評価 90% A 最終評価100% A	【成果】 ・指導課内で共有した指導を各部で行ったり、掲示物を作成して見えやすい位置に掲示したりするなど、教員が指導しやすく、生徒が意識しやすい環境づくりを行うことができた。 【課題】 ・いじめや自殺予防等の未然防止教育や早期発見・対応に関する取組(課題予防的生徒指導)だけではなく、学校教育活動全体を通じた児童生徒への接遇、声かけ、励まし、賞賛、対話などの働きかけ(発達指示的生徒指導)を引き続き取り組み、子どもにとって安心・安全な学校づくりを行っていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・防災に関する情報は、音に頼るところがあるので、情報をどのように取るとよいのか、家庭と連携していく必要がある。 ・「情報リテラシー」という専門的な内容だと取られやすいが、C、Dの評価がないのは周知できているということでありよい。 ・校内を見てまわると、デフリンピックの掲示など、視覚的な情報が充実していてよい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・本校の防災に関しては、再度施設面やシステム面を見直し、必要な設備やフラッシュ機能のある機器等の設置を検討していく。 ・石川県聴覚障害者協会で作成した「防災マニュアル」を活用しながら、本校における防災教育に生かしていく。				
4働きやすい学校づくり	⑦業務の平準化を図り、効率的な分掌体制を構築し、ワークライフバランスの向上を目指す。	○校務会	【満足度指標】 分掌体制の見直しによる平準化や、提案された業務の効率化のための方策を実践することで、自身のワークライフバランスの向上を実感できた。	実践した業務の平準化と効率化を通して、自身のワークライフバランスが向上したと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員 中間評価 85% A 最終評価 87% A	【成果】 ・今年度行った分掌体制の見直しによる平準化や業務の効率化が少しずつ浸透してきている。 ・時間外の勤務時間は、学校行事や学期末の期間には増える傾向はあるが、それ以外の期間については減りつつある。 【課題】 ・年末に行われたネットワーク更新に伴う新たな業務の見直しや、教職員数が減少していく中これまで担当者が一人で行っていた業務を分担し複数で担当する等して、業務の平準化や引継ぎの効率化に向けて取組を進めて行く必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・時間外の勤務時間は、学校行事や学期末の期間には増える傾向はあるが、今年度行った分掌体制の見直しによる平準化や業務の効率化が少しずつ浸透してきているのではないか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・年末に行われたネットワーク更新に伴う新たな業務の見直しや、教職員数が減少していく中これまで担当者が一人で行っていた業務を分担し複数で担当する等して、業務の平準化や引継ぎの効率化に向けて取組を進めていく。				